

令和元年度第4回青梅市行財政改革推進委員会議事概要

1 日 時

令和元年12月25日（水） 午後2時00分から午後3時49分

2 場 所

青梅市役所 2階 205会議室

3 出席者

[出席委員]

菊池 一夫委員	川合	純委員	原島正之委員
宇津木順一委員	田邊	晃委員	伊藤武夫委員
細谷秀秋委員			

[出席青梅市職員]

小山企画部長以下5名

4 議事概要

(1) 企画部長あいさつ

(2) 委員長あいさつ

(3) 議題

ア 令和元年度青梅市行政評価に対する外部評価結果のまとめについて

前回委員会で行った外部評価結果をまとめた報告書（案）にもとづき、内容の説明と確認を実施した。 【財政課長説明】

イ 外部評価に対する感想等について

各委員から、外部評価に対する感想、意見を聴取した。

ウ 青梅市行財政改革推進プランに関する意見交換における議題について

【財政課長説明】

(4) その他

【財政課長説明】

イ 次回委員会は、令和2年2月中旬から3月上旬の間に開催予定。

ア 水村職務代理について、令和元年12月26日付けで退任する旨報告。

5 主な意見等

○ 令和元年度青梅市行政評価に対する外部評価結果のまとめについて

【質問】 2ページ「1」に「行政評価結果について、経年比較が可能となった」とあるがこの意味は。

【回答】 行政評価については、平成30年度から実施しているが、会計情報は単年度分のみ掲載となっていた。今年度は実施2年度目となり、会計情報も2年度分掲載することができ、前年度との比較が可能となった。

【質問】 青梅市行財政改革推進本部において、3事業を選定し、青梅市行財政改革推進委員会に対し依頼があったため、外部評価を実施したとあるが、3事業だけ外部委員が評価すれば、外部評価を実施したことになるとの理解でよいのか。また、この3事業を選定した理由が示されていないため、何のために外部評価をしたのか、それが一体どうなるのかが分からないまま評価させられた感があるので、その辺りについて説明いただきたい。

【回答】 外部評価については、選定した個々の事業について、それぞれ評価していただくことを目的に実施した。3事業を選定した理由については、青梅市行財政改革推進本部において、評価対象事業の中で、現在、市が進めている公共施設の再編の俎上に上がっている事業の中から選定した。選定理由については、報告書(案)に掲載したい。

【質問】 市長の立候補に伴う考え方の中に、郷土博物館、美術館の廃止はうたわれておらず、議会に対する相談もなかったのではないか。また、郷土博物館や美術館のあり方については、本来的には委員会を設けて、市長がその委員会に諮問し、答申を受けてから大筋を考え、どうあるべきかを考えるという流れが本筋ではないかと思うが、そういう手続きがない中、こういう形で出されるのは、個人的に疑問を感じる。

【回答】 郷土博物館、美術館については、今後、複合化等を検討していこうとしている。

委員会の中で議論していただく内容は、施設の廃止等ではなく、市職員が行っているさまざまな事業が、効率的に行われているか、両施設の事業の目的に沿った形で効果的に進められているかという点について評価していただくとしているため、廃止についての議論をしていただくものではない。

【質問】 3事業を選ぶに当たって、将来的な行財政改革の考えにもとづき外部評価の対象としたということだと思うが、議会にも諮られていない、審議会も行っていないという中で、この案件が外部評価に上がってくるのは、整合性に欠けるのではないか。

【回答】 郷土博物館、美術館を含めた公共施設の再編のあり方については、平成28年度に「公共施設等総合管理計画」で、これからの考え方をお示ししており、これについては議会に対しても、全体の考え方としてお示ししている。その中で、郷土博物館、美術館についても、再編方針を立てている。具体的なあり方については、この方針に沿って個々に内部で検討しているところであり、結論は出ていない状況である。

既存施設の運営、施設のあり方等の検討を進めているタイミングにあって、平成29年度および30年度の事業評価が整ったことから、そういった背景がある中において、事業のあり方等に対する評価をいただくという位置づけで外部評価を設定させていただき、評価をいただいた。

今後、今回の評価でいただいたご意見も踏まえて、それぞれの館のあり方の検討を進めていきたいと考えたところである。

【質問】 外部評価報告書を提出した後の手続きはどのようなのか。また、その後の改善策等について、改めて委員会で議論することとなるのか。

【回答】 外部評価報告書を市長へご報告して頂きました後、市では、報告書を行財政改革推進本部へ報告させていただき、それぞれの所管課において、評価結果を受け止め、今

後の事業の進め方あるいは事業の改善等に役立てていくこととなるが、外部評価としては今回で終わりとなる。

【質問】 委員会で議論し、仮に満場一致で廃止となったとしても、廃止はしないのか。

【回答】 委員会については、廃止についての議論をしていただくものではないため、満場一致で廃止となったことを受けて直ちに施設全般を廃止するというにはならないが、例えば、美術館で行っている企画展事業や特別展事業といった個別の取組みに対しては、廃止という可能性はある。

【質問】 大前提を確認したいのだが、市がやっている業務に対して、自ら行政評価をやっているのだが、その内の3事業については、大事な事業なので外部評価を行ってもらったということで、行革委員会が出した結論というのは、市が自らやっている行政評価に対する外部からの意見具申という位置づけだと思う。だから、廃止もなにも結論はなく、我々は意見を具申しただけ。その前提で報告書を見ると、我々の出した大半の結論というのは、今後の方向性は「改善」としている。こういう形で、我々は市長へ提出するので、市長は、外部評価をもらった3事業については、改善しなければならないという意見をもらいましたという受け止め方をするということがよいのかと思うがいかがか。

【回答】 そのとおりである。

【意見】 4ページで、「各委員から寄せられた意見等については、そのまま報告させていただく」とあるが、評価の結論は出ておらず、いろいろな意見があるという評価ということとなるのだから、こうすることとした理由は。

いろいろな人の意見を箇条書きで述べているが、そういった中から、一応評価は、一番多いところでこうですよというまとめ方にするのはではないのかと思う。結論をもう少しまとめた方がよいのではないか。

【意見】 各委員いろいろな意見はあるが、今後の方向性としては、いずれの事業も「改善」を選択した者が多く、改善してよりよくしていくべきだという結論が出ていると思う。それを評価結果のまとめの中に書いていなければ、意見具申したことにならないと思う。

【回答】 本委員会は、位置づけとしては、市長の私的諮問機関であり、審議会とは異なり、諮問して答申という形で意見集約をする性格のものではないが、その中で各分野のお立場から分析していただき、御意見をいただいた。今後、市長へ報告していただき、それを各所管課にフィードバックしていく中で、個々の御意見は大変貴重であるため、参考とさせていただき、PDCAサイクルを推進していく中で、事務改善という形でつなげさせていただきたい。その中で、今ご指摘があった各委員が行った評価の方向性の傾向については、記載することとしたい。

○ 外部評価に対する感想等について

【感想】 施設をどうするかということを考える上において、根本的な結論を先送りにすることで、その間無駄がずっと続くこととなる。根本的な結論は速やかに出しにくいとは

思うが、統合などを考えているのならば、結論を先に出した方がよい。ただらと事業を続けていくことで発生する無駄が大きいのではないか。

【感想】 今回の対象事業については、経済性や効率性といった考えが馴染まないものだと思う。行政が本来やるべき仕事の中で、お金を無視してでもやらなければならないという事業は、いくつもあると思うのだが、郷土の歴史であるとか美術の振興というのは、経済効率と合いいれないと思うので、外部評価で「効率性」や「経済性」を求めても意味がないと考える。外部評価自体は良いと思うが、外部評価すべき事業とそうでない事業を、もう少し敏感に判断すべきと思う。

【感想】 委員会の開催ペースは年4回程度だと思うが、4回で外部評価の答えを出すのは難しい。もう少し回数があってもよいのではと考える。

【感想】 評価の中に「効率性」、「経済性」、「有効性」とあるが、情報量が非常に少ないと感じた。その中で3つの観点で分けて考えるということが難しかった。

各委員が出した意見が、今後、どのように使われていくかが見えないので、見える形をとっていただきたい。

また、委員同士のコミュニケーションをとった方がよいと感じた。

【感想】 郷土博物館、美術館といった文化事業については、入館者数で計れるものなのか。効率性や経済性で評価しているものなのかという点が疑問だったので、評価が難しかった。

また、なぜ、これらの事業が選ばれたのかということも思ったが、公共施設の再編という中で事業内容を確認するということで理解はできたが、対象を何にするのかということは、考えていく必要があると感じた。

あと、博物館が2つの事業に分かれていたが、分かりにくかった。

廃止や統合という話が出てくると、将来性という部分に不安に思いながら、必要最小限の事業活動しか進めることができないなど、仕事に対する展望が開けず、それぞれの職員が持っている力が十分に発揮できないということが出てこないか。できるだけ早く方針を決め、その方向で進めるということも大事なことだと感じた。

【感想】 誤解されている方も多いのではないかと感じているのだが、今回、たまたま行革推進本部から外部評価の依頼があったから外部評価を実施したのであって、この委員会では外部評価の委員会ではない。たまたま外部評価を請け負ってやっただけで、本来的には行財政全般に対し意見を述べる場だと思っている。そのあたりの誤解が無いようにしていただきたい。

そういった観点からも、なぜこの事業が選定されたかという理由については、統廃合が俎上に上がっているから、外部評価の対象としたということには、なかなか納得がいかない。むしろ、市民や市外の人たち皆が訪れる博物館であるのでとか、美術館は意義がある事業なので、外部評価をいただいたという選定理由の説明があったら、もう少し張り切ってやれたと感じた。

将来的に統廃合が議論されているから、その後押しをしなければならないのか、反対しなければならないのか、そういう生々しいところに持っていかれて外部評価を

したような気がするので、そうではなく、市にとって大事な事業なので改めて外部評価をしたという選定理由にさせていただけると、意義がはっきりすると思う。

【感想】 理念やあり方、考え方をしっかりしたうえで選定を分かり易くしていただけないと、外部評価をやる意味が見えづらくなっていたと思う。

○ 青梅市行財政改革推進プランに関する意見交換における議題について

【観】 去年、防災を取り上げて大変良かったと感じたが、その中でやり残したこととして、市の魅力発信事業がある。外向けに市の魅力を発信する事業についてやるべきではないか。

事業は二つくらいやった方がよいと考える。一つは外向けとしての魅力発信、もう一つは、行財政改革という観点から、内向けにお金の使われ方の適正化、あるいは収益の確保などといったことなどについて議論した方がよいと思う。

【質問】 経常収支比率などの過去 10 年の変動値などはすぐに出せるのか。

市民税、固定資産税、地方交付税の 3 つが大きな収入だと思うが、これらの 10 年分の数値を出すことは可能か。

青梅市の一般会計から外部の団体に出している補助金について、上位 10 項目を出すことも可能か。財政が苦しいというのは理解できるが、どういう風に収益源が変わってきたのかという基本的なことを知りたい。

【回答】 資料の作成は可能である。

【質問】 財政面を議題にしたいとした場合、どの項目が対象となるのか。

【回答】 お金の使い方の適正化に関連しては、行財政改革推進プランの「財政運営の効率化」あるいは「財源確保の対策」がある。また、市の独自財源ということで「モーターボート競走事業収益金の確保」あるいは「特別会計・企業会計の経営改善」がある。

また、「経常収支比率の改善」、「公共施設再編計画の推進」あるいは「市税収納率の向上」、「使用料・手数料等の設定および見直し」など、行財政改革推進委員の提言等をもとにまとめたものがある。そういったところで取り上げることは可能であるが、全体をやるとなると広くなりすぎてしまうので、どこを深掘していくかという部分を調整する必要がある。

【観】 市長も活力ある青梅を目指すとっており、根本的には、いかに青梅市を活力あるまちにするかということが最終目的であると思うので、各委員が事前に出した項目の中から選定したらよいのではないかと思う。

【観】 人口減少が財政にも影響を及ぼしていると思うので、人をいかに青梅市に集めるか、それには魅力を持たせるということが必要。他の市ではやっていない新しいことをやるという、夢を語る必要があるのではないか。

人口減少となると職員も減らさなければならないとなると、行政サービスのデジタル化などという方面もあるが、どちらにしても財政も絡んでくるので、どの辺を皆で議論していくかということになる。

【観】 魅力発信という点は重要である。市民本位の行政サービスの推進ということを青梅

市の魅力発信という観点から見ていくこともできるのではと考える。青梅市は広く知られているが、中身については必ずしも知られていない。青梅市の魅力というものをどうやって出していくのかという観点から、例えば、子育て環境はどうか、企業が仕事しやすい場所なのか、外から人を引き寄せる魅力は十分発揮しているのかというような視点で見えていくと、改革的なところも見えてくるのではないか。そういった意味では、一番分かり易いのは、「市民本位の行政サービス」という視点ではないか。

【意見】 「財政運営の効率化」というのは考えなければいけないテーマだと考える。

【補】 今回初めての試みであるが、委員間でのフリートークの方式でいろいろご提言をいただければと考えている。

意見交換の結果については、その概要をまとめて行財政改革推進本部に報告し、その後、各所管課に報告し、行財政改革推進プランを推進していく上で事業に役立てていくという位置づけとしたいと考えている。その趣旨で、次回の意見交換を運営していきたいと考えているが、事業を絞ることが難しいのであれば、各委員から出していたいただいた取組区分の内容の中には共通項となる部分があるので、その範囲の中でフリートークをしていただくという方法も一つと考える。

【意見】 歳入、歳出面からいろいろな事業を見ていくというのがよいのではないか。

【意見】 魅力発信としては、観光面について議論してもよいのではないか。市は良いところの説明不足だと感じる。その辺を議論してもよいのではないか。

【意見】 今回、市長も活力ある青梅を目指すとしているのだから、活力を目指すには何をしたらよいかという点を柱にしたらどうか。

【まとめ】 意見交換の項目としては「財政基盤の確立」とし、それを柱に、いろいろな観点から意見交換を実施していくこととする。